



令和 3 年 3 月 3 0 日

令和 3 年度北海道開発事業費

(函館開発建設部実施分) の概要について

令和 3 年度北海道開発事業費（函館開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

参考として、北海道開発局（本局）の公表に倣い、令和 2 年度第 3 次補正予算を含む予算総括表もあわせて添付しています。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

全体	広報官	齊藤 整	（電話 0138-42-7702）
治水関係	工務課長	神馬 強志	（電話 0138-42-7602）
道路関係	道路計画課長	今野 秀一	（電話 0138-42-7614）
港湾・空港・水産関係	築港課長	中村 雅博	（電話 0138-42-7635）
農業関係	農業開発課長	佐々木 紀映	（電話 0138-42-7647）

函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/>



令和 3 年度

北海道開発事業費の概要

令和 3 年 3 月

函 館 開 発 建 設 部

令和3年度 函館開発建設部事業費総括表

(事業費)

(単位:百万円)

事 項	予 算 額	備 考
治 水	1,214	
道 路	22,108	
港 湾 整 備	2,010	
空 港 整 備	141	
農業農村整備	3,557	
水産基盤整備	3,149	
合 計	32,178	

(注) 1 農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。

2 治水には都市水環境整備を含む。

3 四捨五入の関係で計と内訳が一致しないことがある。

函館開発建設部事業費総括表（令和２年度第３次補正予算・令和３年度当初予算）

（事業費）

（単位：百万円）

事 項	合 計	令和２年度 第３次補正予算額 （令和３年１月２９日公表）	令和３年度 当初予算額	備 考
治 水	1,651	437	1,214	
道 路	26,741	4,633	22,108	
港 湾 整 備	3,343	1,333	2,010	
空 港 整 備	141	0	141	
農 業 農 村 整 備	4,957	1,400	3,557	
水 産 基 盤 整 備	3,697	548	3,149	
合 計	40,529	8,351	32,178	

- （注） １ 農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 ２ 治水には都市水環境整備を含む。
 ３ 四捨五入の関係で計と内訳が一致しないことがある。

◆治水事業

後志利別川は、今金町の長万部岳を源とし、せたな町で日本海へ注ぐ、幹川流路延長 80km、流域面積 720km² の道南で唯一の一級河川であり、これまで「全国一級河川の水質現況調査結果」で幾度も水質が最も良好な河川に輝いた自然環境豊かな清流河川です。

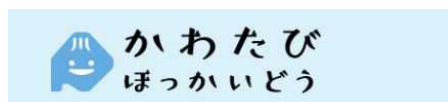
後志利別川においては、流域のポテンシャルを活用して「恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成」や「強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成」など、第 8 期北海道総合開発計画の主要施策の推進に資する河川整備を図ります。

また、気候変動の影響による災害の激甚化・頻発化に対応し、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を計画的に推進するため、「後志利別川水系流域治水プロジェクト」に基づき、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進します。

川からはじまる地域づくり、観光に貢献する「かわたびほっかいどう」を推進し、美利河ダムをはじめとする「かわ」の魅力を発信します。



「流域治水」の施策のイメージ



1 河川事業

後志利別川河川整備計画に基づき、河道掘削、堤防強化、樋門遠隔化等のハード対策、迅速な避難につながる河川情報の提供等のソフト対策を促進します。また、堤防や樋門など河川管理施設の機能を保持するため、堤防除草や施設の点検整備等を実施するとともに、防災インフラの管理の効率化・高度化と予防保全（老朽化対策）を実施します。



河道掘削状況

2 ダム管理

平成 3 年に完成した美利河^{びりか}ダムは、複合型ダムとしては日本一の堤頂長 1,480m を誇る、流域の洪水被害を軽減するための洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給及び水力発電を目的とした多目的ダムです。

美利河ダムでは、治水・利水・環境機能を確保するためダム施設の点検整備、観測・操作などを行い、管理の充実を図ります。

また、平成 17 年には、海域からダム上流域の河川への連続性を確保するため、美利河ダムに 2,400m の魚道を整備しました。引き続き、魚類の遡上・降下調査や魚道内魚類分布調査を行います。



美利河ダム

事業別	地区別等	事業の概要
河川改修	後志利別川	河道掘削、堤防強化、樋門遠隔化など
河川維持修繕	後志利別川	堤防管理、水閘門等維持管理、河川巡視など
堰堤維持	美利河ダム	維持管理及び修繕、点検整備、魚道調査

◆道路事業

北海道開発については、北海道の資源・特性を活かして我が国の発展と課題解決に寄与するため、国が策定するビジョンである北海道総合開発計画に基づき諸施策を推進しています。現行の第8期北海道総合開発計画においては、「世界の北海道」を目指し、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として位置付けており、引き続き食と観光を担う「生産空間」の維持・発展に取り組んでいく必要があります。

具体的には、我が国の食料供給基地としての持続的発展を目指すため、北海道の「食」の高付加価値化、「食」の輸出の推進を支える物流ネットワーク及び我が国の観光先進国実現をリードするため、観光地や主要な空港・港湾等への交通アクセスの円滑化を進める高規格幹線道路ネットワーク等の構築を推進します。また、激甚化・頻発化する気象災害や切迫する大規模地震、インフラの老朽化の現状を踏まえ、道路の防災対策、老朽化対策、交通安全対策や無電柱化等、社会資本の戦略的な維持管理・更新を推進します。

国内外の新たな観光需要を取り込むため、高規格幹線道路ネットワーク等の構築に加えて、地域資源を活かした多様な観光メニューのより一層の充実が必要です。このため、多様な機関との連携のもと、「シーニックバイウェイ北海道」の推進、道の駅の整備等のドライブ観光促進の取組や、サイクルツーリズムの推進に取り組めます。

1 食料供給基地としての持続的発展及び世界水準の観光地の形成を目指す地域社会の形成

○広域分散型の地域構造を支える道路ネットワークの形成

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携を確保するため、高規格幹線道路等のネットワークの構築を推進します。

2021（R3）年度は北海道縦貫自動車道 七飯～大沼、函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路の整備を推進します。



函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路の整備状況

○渋滞対策の推進

北海道渋滞対策協議会において特定されている主要渋滞箇所（道内全路線：167箇所）の解消に向けた検討・対策を実施します。2021年3月28日 函館新外環状道路 空港道路（赤川IC～函館空港IC）L＝7.6km 開通

○「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

インバウンド受入環境や防災拠点施設、子育て応援施設など、あらゆる世代が活躍する地域拠点機能を強化し、官民の力を合わせて更なる地方創生を推進します。

○ドライブ観光の推進

コロナ禍における道内や国内の観光需要の早期回復に向け、国内に類を見ない雄大な自然等を活かした「ドライブ観光」を推進します。

管内では、外国人旅行者の急増、個人旅行化、冬期間のレンタカー利用者増加、地域間の旅行需要の偏在に対し、鉄道やバス等の公共交通機関とともに重要な2次交通手段であるレンタカーを利用するドライブ観光を推進するため、多言語による道路情報提供等の充実、快適なドライブ環境の形成を推進します。



高速道路ナンバリング対策事例

○「シーニックバイウェイ北海道」の推進

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取組です。

管内では「函館・大沼・噴火湾ルート」と「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」の2つが指定ルートとなっています。



五稜郭公園 シーニック de ナイト

2 強靱で持続可能な国土の形成

○道路の防災・減災対策

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格幹線道路等の整備や緊急輸送道路上の道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を重点的かつ集中的に推進します。

2021（R3）年度は函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路、渡島中山防災等の整備を推進します。



渡島中山防災の整備状況

○冬期災害に備えた対策の推進と災害発生時における地域支援

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格幹線道路等の整備、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。

また、災害発生時における被災地の支援のため、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン^注）を含む等により、被害拡大の防止、被災自治体管理施設の被災状況の調査、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）



防災訓練の状況

○道路施設の老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。

2021（R3）年度は国道5号等で老朽化対策を推進します。



橋梁点検車による橋梁点検状況

○無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、無電柱化推進計画に基づき、各道路管理者・関係事業者の連携の下、無電柱化を推進します。

2021（R3）年度は国道5号七飯町、国道278号及び279号函館市で電線共同溝等の整備を推進します。



電線共同溝の管路設置状況

○交通安全対策の推進

事故データ、地域の声やビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン*を推進するとともに、高規格幹線道路の暫定2車線区間については、正面衝突事故対策としてワイヤロープの設置を計画的に推進します。また、未就学児を含む子供の移動経路における交通安全の確保に向けた取組について関係機関と連携し推進します。

2021（R3）年度は国道5号七飯町小沼中央帯整備等の交通安全対策を推進します。

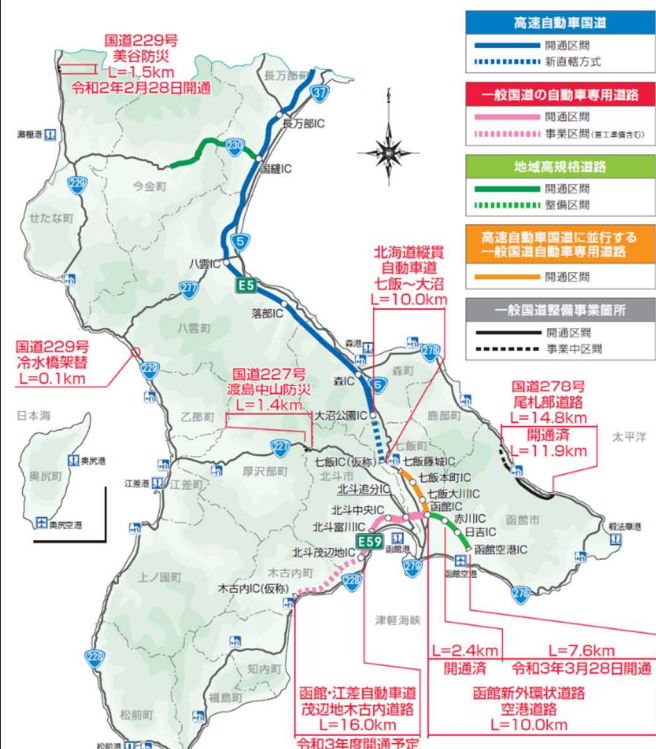


小沼中央帯整備状況

* 事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組。

道路事業の概要

路線名	主 要 事 業
E5 北海道縦貫自動車道 (七飯～大沼)	【七飯～大沼】 (高速自動車国道の整備)L=10km
E59 函館・江差自動車道	【茂辺地木古内道路】 (高規格道路の整備)L=16.0km 令和3年度開通予定
函館新外環状道路	【空港道路】 (地域高規格道路の整備)L=7.6km 令和3年3月28日開通
国道227号	【渡島中山防災】 (防災対策)L=1.4km
国道229号	【美谷防災】 (防災対策)L=1.5km 令和2年2月28日開通 【冷水橋架替】 (老朽化対策)
国道278号	【尾札部道路】 (隘路区間の解消、防災対策)L=14.8km
国道5号ほか	【中央帯・付加車線設置】 国道5号 七飯町 【視距改良】 国道230号 今金町ほか 【橋梁修繕】 国道5号 七飯町ほか 【トンネル修繕】 国道5号 森町ほか 【電線共同溝】 国道5号 七飯町ほか 【舗装修繕】 国道5号 森町ほか



令和3年度（新規）

一般国道229号 ひやみずばし 冷水橋架替

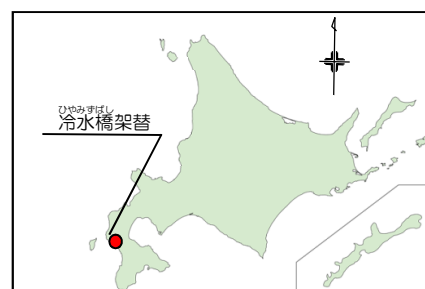
（直轄）

1. 概 要

一般国道229号冷水橋架替は、凍害や塩害による著しい劣化損傷を解消し、緊急輸送道路としての安全性・信頼性確保。

2. 計画内容

箇所名：北海道ふたみ二海郡やくち八雲町くまいしくいわ熊石黒岩
～北海道ふたみ二海郡やくち八雲町くまいしくいわ熊石黒岩
延長：L=0.1km



損傷状況



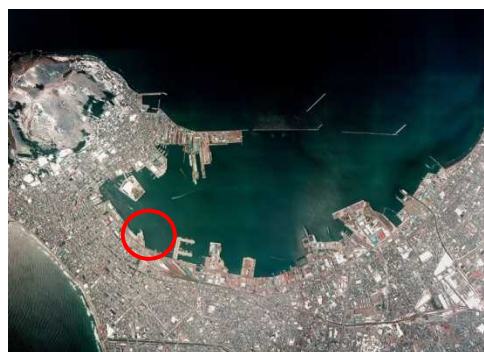
◆港湾整備事業

管内の港湾は、渡島・檜山地域の物流拠点として重要な役割を担っており、特に、函館と青森を結ぶ青函航路は、北海道と本州間のフェリー貨物輸送の約3割を占めるなど、北海道産の生鮮食料品等移出する重要な航路となっています。

重要港湾函館港や各地方港湾では、国土強靱化の推進とともに、港湾機能の充実や離島住民の生活安定向上などを図るための港湾整備を進めています。

1 重要港湾函館港の整備

重要港湾函館港はクルーズ船の寄港数が増加しており、令和元年度には47隻が入港し4年連続で道内最多の寄港回数を記録しました。現在、観光地に近い若松地区において、既存施設の改良による11万トン級の大型クルーズ船に対応した岸壁整備を行っており、令和2年度には岸壁の完成とともに9万トン級までのクルーズ船の寄港を可能とする泊地の整備を進めてきました。令和3年度は、大型クルーズ船入港に必要な泊地浚渫を継続して整備を行うとともに、浚渫で発生した土砂は、老朽化した西防波堤の機能回復に有効活用します。



重要港湾函館港若松地区

2 地方港湾の整備

地方港湾奥尻港ほか4港では、老朽化した施設の機能回復、港内静穏度の確保等、港湾の効率的な利用を図るため、物揚場、防波堤、護岸等の整備を進めます。



小型船だまりの整備が進む奥尻港

事業区分	港 湾 名	地区名	事 業 の 概 要
港湾改修事業	重 要 港 湾 函館港	若松地区	水深10m泊地
		本港地区	西防波堤改良
	地 方 港 湾 森港	本港地区	東道路、水深2.5m西物揚場改良
		本港地区	東防波護岸改良
	江差港	本港地区	港湾施設用地護岸、水深3.5m物揚場、水深5m北岸壁改良
	奥尻港	本港地区	北外防波堤、水深3m北物揚場
	瀬棚港	本港地区	東外防波堤

◆ 空港整備事業

函館空港は函館市内中心部から東へ約10kmと好立地に位置し、国際線1路線（2社）、国内線6路線（3社）の計7路線を有する道南の空の玄関口となっています。

旅客数は北海道内で新千歳空港に次いで2番目に多い空港で、令和元年の国際線旅客数は、平成24年の約2.5倍に増加しています。なお、令和3年3月1日から北海道エアポート(株)により、空港運営事業（運航情報、保安防災、施設管理、灯火電気など）を開始しています。

函館空港では、豪雨による空港施設の浸水を防止するため、排水機能強化による浸水対策を行います。



函館空港 排水対策整備箇所

空港種別	空 港 名	事 業 の 概 要
拠点空港(国管理空港)	函館空港	浸水対策

◆農業農村整備事業

管内の農業は、道内で最も開拓の歴史が古く、比較的温暖な気候を生かし、米や野菜を中心に、ばれいしょ・豆類等の畑作物、さらに酪農・畜産を含めた多様な農業が展開されています。

農業農村整備事業は、「産地収益力の向上」、「担い手の体質強化」及び「老朽化や災害リスクに対応した農業水利施設の戦略的な保全管理と機能強化」等の実現を目標に、ほ場の大区画化、暗渠排水及び農業水利施設など農業生産基盤の整備を行うものです。

事業実施地区

○国営緊急農地再編整備事業

今金町及びせたな町の地区内において、区画整理及び土地利用の再編を行い、さらに担い手への農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性の向上と優良農地の確保を図る「今金南地区」及び「今金北地区」を推進します。



事業実施地区

事業種別	地区名	関係市町名	受益面積	事業の概要
国営緊急農地再編整備事業	今金南地区	今金町、せたな町	1,224ha	区画整理 1,224ha
	今金北地区	今金町	1,536ha	区画整理 1,013ha 頭首工1箇所、揚水機場1箇所

◆水産基盤整備事業

管内の漁業は、古くからニシン漁で栄え、現在も恵まれた水産資源を基に、日本海・津軽海峡のイカ釣り・マグロ漁、太平洋・噴火湾のホタテガイ・コンブの養殖、冬場のスケトウダラ漁など、多種多様な漁業が営まれており、地域の基幹産業として重要な役割を果たしています。

生産・流通拠点漁港の整備

管内の第3種及び第4種漁港は、安全・安心で新鮮な水産物を安定的に供給するため、水産物の生産・流通拠点としての役割や近隣海域で操業する漁船の避難拠点としての役割を担っています。

令和3年度は、「水産物の流通効率化や生産性向上のための基盤強化対策」を図る岸壁・道路などの整備、「災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策」を図る防波堤や護岸などの整備を推進します。また、漁港施設の長寿命化を図るための岸壁などの補修を行います。



令和3年度 水産基盤整備事業の概要

事業区分	地区名	事業の概要	
特定漁港 漁場整備 事業	久遠地区 (第3種久遠漁港)	外郭施設: 南護岸(改良)	漁港施設用地: 用地(改良)
	青苗地区 (第3種青苗漁港)	外郭施設: 北防波堤(改良)	漁港施設用地: 用地(改良)
	江良地区 (第3種江良漁港)	外郭施設: 波除堤、南防波堤(撤去)	
	大島地区 (第4種大島漁港)	係留施設: 水深3.5m岸壁	水域施設: 水深3.5m泊地、泊地護岸
	福島地区 (第3種福島漁港)	【福島工区】 外郭施設: 護岸(改良)	漁港施設用地: 用地(改良) 係留施設: 水深2.5m物揚場(改良)、船揚場(改良)
	臼尻地区 (第3種臼尻漁港)	輸送施設: 臨港道路	
	砂原地区 (第3種砂原漁港)	係留施設: 水深3.5m岸壁(改良)	
	北海道第3種 及び第4種漁港地区	【小島漁港】 外郭施設: 北防波堤(補修)	係留施設: 水深3.0m岸壁(補修)
		【函館漁港】 外郭施設: 石積護岸(補修)	係留施設: 水深4.0m岸壁(補修)
		【山背泊漁港】 外郭施設: 西防波堤(補修)	
		【臼尻漁港】 係留施設: 船揚場(補修)、水深2.0m物揚場(補修)	